

大牟田市立みなと小学校

1 本校のESDの特徴

本校では、校区に三池港を有するという地理的条件を生かして、有明海にかかわるひとやもの、こ
とを教材とした「海洋教育」に取り組んでいる。この海洋教育は、天領小学校、駛馬小学校、天の原
小学校と連携しながら、4校協働のカリキュラムを作成して実施している。また、令和2年7月豪雨
による被災経験に基づき、減災・防災教育に取り組んでいる。この減災・防災教育については、海洋
教育の一環として実施しており、発災原因である海洋の温暖化問題などの学習にも取り組んでいる。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

(1) 海洋教育

東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターの先生方のご指導を頂き、4校協働カリキュラムのもとで実践に取り組んでいる。カリキュラムは、学年ごとに4校共通テーマを設け、学習内容に系統性をもたせて作成している(図1)。また、学習対象を4校で役割分担し、各校で調査したり行動したりしたことをzoomで交流している。

(詳細は「海洋教育実践報告書」を参照)



図1 海洋教育の学年別テーマと系統性

(2) 防災・減災教育

令和2年7月豪雨の経験をもとに、「自主避難訓練・集団下校訓練」「総合的な学習の時間(海洋教育の一環)」「『防災・減災を考える日』(7月6日の取組)」の三本柱で実践に取り組んでいる(図2)。防災・減災教育については特にPDCAサイクルを重視し、活動ごとに職員全体で課題を洗い出し、次の活動の改善につなげている。(詳細は『みなと小学校の防災・減災教育』リーフレットを参照)

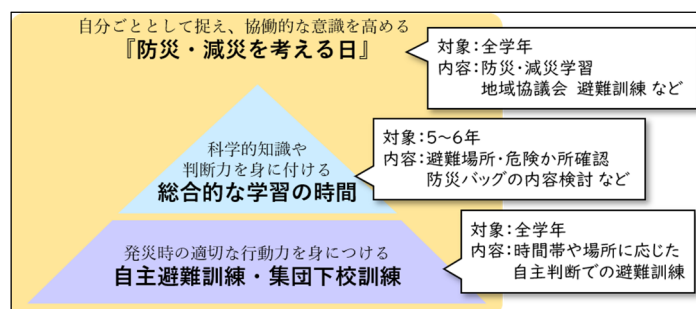


図2 防災・減災教育の取組の三本柱

3 特徴的な活動事例の紹介

(1) 3年生:「有明海の生き物を調べよう」

3年生は「海を知る」をテーマに、海や川の中に棲む生物の多様な生態について学習する活動に取り組んだ。

まず、荒尾干潟を観察したり三里漁業協同組合の漁師さんにお話を伺ったりして、海に棲む生き物の特徴などを調べた(写真1)。次に、調べた生き物のことについて、特に名前の由来や特徴などを絵や文でまとめ、4校でオンライン交流した。そして、まとめたものを発信する相手を話し合い、公民館や地域商店など多くの人の目につく施設に配布しようと計画した。最後に、計画にしたがってそれぞれの施設に配布し、学習したことを発信した。



写真1 干潟にすむ生き物を観察する活動(荒尾干潟)

(2) 4年生：「有明海の環境の問題を調べよう」

4年生は「海を守る」をテーマに、人の生活が海に与える問題（ごみ）について学習する活動に取り組んだ。

まず、「有明海にもごみはあるのか」という疑問を基に、元三池海水浴場のごみの様子を調べ、大量に落ちていたことから回収作業を行った（写真2）。次に、「ごみはどこから来ているのか」という疑問をもとにごみを分別し、浮遊ごみが多いことを明らかにした。そして、4校でオンライン交流し、ごみの種類や量の比較から浮遊ごみは流れて海に溜まってしまふことを明らかにした。最後に、ごみの量を減らすためにポイ捨て禁止を呼びかけるポスターや動画などの発信物を作成し、地域に配布したり本校ホームページ上で公開したりした。



写真2 有明海のごみを調査する活動（元三池海水浴場）

(3) 5年生：「有明海と人の生活の関係を調べよう」

5年生は「海を活用する」をテーマに、海が人の生活に与える恩恵や被害について学習する活動に取り組んだ。特に本校では、令和2年7月豪雨による被害を受けたことから、海を発生源とする災害について学習した。

まず、「なぜ発災するのか」という疑問を基に、津波や豪雨が発生する仕組みや被害の様子を学習した。次に、「どうすれば身を守れるか」という疑問を基に、浸水時に危険となる場所や逃げ込むことができる建物について調べたり、防災バッグの中身を検討したりした（写真3）。そして、調べたことを校区の防災マップに付け加えたり、動画にまとめたりした。最後に、各学級に情報を付加して作成した防災マップを配付した。



写真3 津波や豪雨災害時に避難できる建物を調査する活動

(4) 6年生：「有明海と人の共生について考えよう」

6年生は「海を活用する」をテーマに、発災後一年が経過した現在の地域課題を追究する活動に取り組んだ。

まず、自分たちが感じている現在の課題や地域の未来像を話し合い、今後の取組の方向性を描いた。次に、「自分たちの課題意識は地域の課題意識と一致しているのか」という疑問を基に、地域や近隣の小、中学校、保育園、福祉施設、公共施設などにアンケート調査を行い、結果を分析して意見交換を行った（写真4）。そして、「地域の防災意識に課題がある」ということを明らかにし、その課題を解決するための方法について話し合った。最後に、自分たちの被災体験や身の守り方について動画などにまとめ、発信を行った。



写真4 地域の防災意識について意見交換する活動

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・コロナ禍においても可能な形で体験活動を実施したりオンラインを活用して4校間の交流活動を実施したりすることで、児童の体験的な理解を深めたり協働意識を高めたりすることができた。

○課題

- ・コロナ禍であることを念頭に、今後も様々なツールの活用を検討・促進しなければならない。